

## 日本語自称詞「ボク」「オレ」と結びつく人物像

### －男性話者の丁寧体使用に注目して－

西澤 萌希・名古屋大学人文学研究科 [院]

#### 1. はじめに

日本語は他の言語と比べて多くの自称詞を持つ言語とされる。そのため、日本語社会では自称詞の使用に関する選択に迫られる。選択の基準になるものは様々考えられ、従来では相手との上下関係、場の公私、自称詞が持つイメージが挙げられてきた。発表者はこれらの基準について、“自称詞とある人物像の結びつきを想定するものである”という点で共通すると考えている。例えば目上の相手に「オレ」よりも「ボク」が選ばれるのは、「オレ」が「ボク」よりも粗野な人物像と結びつくことが想定されるためであろう。

自称詞が表す人物像については様々な観点から考察されているが、それら従来の研究では“自称詞が異なれば結びつく人物像も異なる”という前提が垣間見える。しかし、西澤(2021)が示唆するように、異なる自称詞でも類似の人物像と結びつき、同じ自称詞でも異なる人物像と結びつくことがあり、自称詞と人物像の結びつきの実際は単純ではない。

以上の問題意識のもと、本発表では日本語自称詞「ボク」「オレ」がどのような人物像と結びつくのかを、定延(2011、2020)の「発話キャラクタ」の概念を参考にしつつ、少年マンガにおける男性登場人物の丁寧体の使用に注目して分析する。その上、結びつく人物像同士の関係性を、Eckert(2008)の「指標の場(indexical field)<sup>1</sup>」を参考に体系的に捉えることを目指す。

#### 2. 自称詞キャラクタ

本発表では自称詞「ボク」「オレ」を用いる話者がどのような人物像を表すのかを、定延(2011、2020)が提唱する「発話キャラクタ」の概念を参考に分析する。つまり、本発表における人物像とは「発話キャラクタ」である。

なお定延(2020)によれば、丁寧体から非丁寧体へ、というスタイルの変化は「発話キャラクタ」とは別のものであり、「発話キャラクタ」はスタイルほど流動的に変わることがないとしている。確かにスタイルの使い分けは流動的であり、目上に丁寧体を使いつつ同席する同輩に非丁寧体を使用しても「キャラクタ」が変わったとはならないだろう。しかし、“丁寧体と非丁寧体をどのように使い分けるか”、すなわち“丁寧体の使い方”はある程度固定的であり、それ故、普段は目上の相手に丁寧体を使用する人物が、目上にも非丁寧体で話している様子を偶然見てしまえば、その人物に抱いていた人物像が崩れ、違和感を覚えることになる。したがって、本発表で注目する丁寧体の使い方という面は、スタイルの変化よりも固定的であり、「キャラクタ」の範疇であると発表者は捉えている。

定延(2011、2020)によれば、「発話キャラクタ」は「品」「格」「性」「年」の4つの尺度で観察できることが多々あるという。「品」は《上品》《下品》、「格」は《別格》《格高》《格低》、「性」は《男》《女》、「年」は《老人》《年輩》《若者》《幼児》にそれぞれ分類することができる(どの分類にも当てはまらない場合は「無指定」とする)。これらの尺度を

人物像の分析に用いることにより、複数の人物像同士の関係を一定の基準から体系的に捉えることができるようになり、本発表の目的に有効であると考えます。よって、この4つの尺度を本発表での分析に援用する。

このように「発話キャラクタ」を観察する尺度を援用すること、また従来人物像と結びつく語尾が「キャラ語尾」と呼ばれている（金水 2003）ことから、本発表では人物像と結びつく自称詞を「キャラ自称詞」、キャラ自称詞で表れる人物像を「自称詞キャラクタ」と呼ぶ。加えて、自称詞キャラクタを個別の自称詞に関して指示する場合、「《ボク》キャラ」「《オレ》キャラ」のように呼ぶこととする。

### 3. 指標の場

ある言葉が持つ意味のうち、発話主の立ち位置（スタンス）や「丁寧」「無礼」のような質、また発話主の階層や性別等の社会的アイデンティティを含むものを「社会的意味」といい、その獲得される過程としてしばしば指摘されるのが「指標性（indexicality）」である。

指標性とは、あるものごとやことばが、近接関係にある意味を指し示すことである。例えば丁寧体の「です」は、近接関係にある場面（フォーマルな場面や丁寧な場面、目上との会話など）を指し示す。ことばは同じ場面で繰り返し使われることによって、特定の意味を繰り返し指標し、強く結びつくようになる。こうして社会的意味が獲得される。特に指標性によって獲得された社会的意味を「指標的意味（indexical meaning）」という。

指標的意味はある特定の場面と繰り返し共起することで獲得されるその性質から、イデオロギーと結びつくことが多々ある。このとき、結びつくイデオロギーは一つとは限らず、集団や社会、文化によって異なり、場合によっては一つのことばが多くの指標的意味と結びつく。このようにイデオロギーによって結びついた多くの指標的意味の集合を、Eckert (2008) は「指標の場（indexical field）」と呼んでいる。

Eckert (2008) によると、英語で [t] を解放し強く発音する発話は〈学校の先生〉〈イギリス人〉等の社会的アイデンティティ、〈高学歴〉〈雄弁〉等の質、〈大げさ〉〈怒っている〉等のスタンスという多くの指標的意味と結びつき、指標の場を形成している（図 1）。

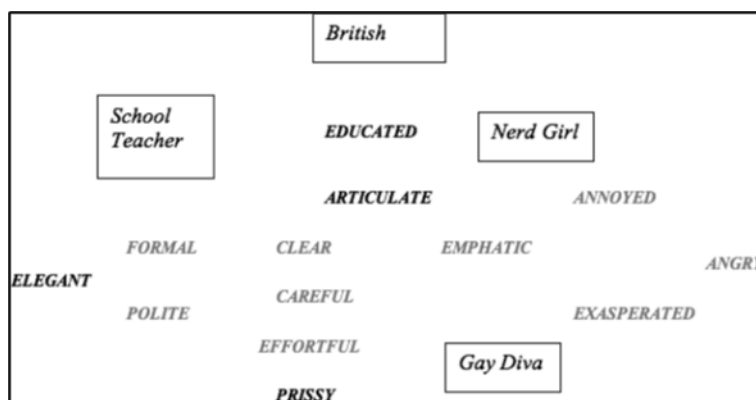


図 1 Indexical field of /t/ release. Boxes = social types, black = permanent qualities, gray = stances (Eckert 2008: 469)

本発表で分析する自称詞「ボク」「オレ」についても、多くの人物像と結びつくと考えられる。この人物像は「社会的アイデンティティ」に相当し、それら人物像同士を体系的に

捉える際の4つの尺度「品」「格」「性」「年」は「質」「スタンス」に相当する。よって、本発表では自称詞「ボク」「オレ」それぞれがどのような人物像と結びつくのか、それらの人物像同士の関係はどのように捉えられるのかを考察する上で、「指標の場」を参考にする。

#### 4. 調査の対象

本発表で分析対象とするのは、集英社が発行する漫画雑誌『週刊少年ジャンプ』の2020年1号から52号における、「ボク」あるいは「オレ」を用いた男性の発話である。

#### 5. 《ボク》キャラの丁寧体使用

「ボク」を使用する男性の発話を観察したところ、一貫して非丁寧体で話す人物、また丁寧体と非丁寧体を使い分ける人物が、それぞれ比較的多く見られた。

##### 5.1 非丁寧体のみで話す《ボク》キャラ

非丁寧体のみで話す《ボク》キャラとして、大きく2種が見られた。1種目は以下のように発話する人物であった。

- (1) アベル：……母は間違っていた… 甘やかす必要などなかったんだ… 底辺にいる人間は然るべくしている 決して相容れない 僕は目的の為に優秀な人材を集めた アビスを始め現状に強く不満を持つ人間を… 借りてはならない力にも手を出した… 目的の為に… 僕の考えは変わらない 底辺弱者は狩られて当然 むしろ狩るべきだ…

(甲本一「マッシュル-MASHLE-」『週刊少年ジャンプ』2020年43号, 集英社)

- (2) アベル：抗うのもまた弱者の当然の権利だ

ウォー：……なんのつもりだアベル

アベル：確かめるのだ 何が正しいのかを **僕**自身の手でな

(甲本一「マッシュル-MASHLE-」『週刊少年ジャンプ』2020年48号, 集英社)

(1)(2)は、魔法こそがすべてであり、魔法が使えない者は迫害される世界が舞台になっている。「アベル」は特に魔法に長けた人物であり、(1)にあるように周りの人間を「底辺」「弱者」と捉え、「相容れない」としている。この「アベル」は、仕える主人、つまり目上である「ウォー」に対しても非丁寧体で話す(2)。この場面で目上のウォーに対して非丁寧体を用いるのは、丁寧体を用いてしまうとそれまで見せていた“一貫して非丁寧体で話して周りを劣っているように扱う自らの人物像”が崩れてしまうためだと考えられる。

このような、自らを上位者として位置づけ、基本的に非丁寧体で話す発話主が複数見られた。このことから、一貫して非丁寧体で話す《ボク》キャラとして自らの「格」が周りの人物よりも高いかのように発話する《上位者》が認められる。《上位者》は発話主の「格」に関して表れたものであるため、「格」が《格高》であるというスタンスを指標する。

また、一貫して非丁寧体で話す《上位者》とは異なる《ボク》キャラの発話例として、次のようなものも見られた。

- (3) 翔太：教えて！ どうすればいいと思う！？

的場：い…いや…こんなもの俺にはどうにも…が…学会に…

翔太：甲一兄ちゃんは僕に虫の事を教えてくれた先生だもん 兄ちゃんより頼れ

る人なんていないよ！ 甲一兄ちゃんの力が必要なんだ！！ お願い！！

(長谷川智広「森林王者モリキング」『週刊少年ジャンプ』2020年50号)

(4) ハゼレナ：…きみそんなにしっかりしてるのに迷子になっちゃったの？

ネック：うん…ぼくねまだ子供ということもあって空間認識能力に関しては著しく未熟な部分があるんだ ああ一早く身内の人間と合流したいな 不安から生じる動悸が治まらないんだ身内の人間と合流しないと

(鳩胸つるん「ミタマセキュ霊ティ」『週刊少年ジャンプ』2020年3号, 集英社)

(4)(5)は、少年の発話主(「翔太」「ネック」)が年上の相手(「的場」「ハゼレナ」)に対して非丁寧体で話す点で共通する。このように本来ならば丁寧体を使うべき相手に非丁寧体で話す少年が他にも複数見られた。ここでは、発話主が少年であり、発話相手も特に丁寧体の使用を発話主に期待しないため、非丁寧体を使っても難なくコミュニケーションができていられると考えられる。このような人物を定延(2011)は「《ごまめ》」と呼んでおり、定延(2011)では「格」において最も低い分類、また定延(2020)では「年」において《幼児》にあたる分類としている。よって、一貫して非丁寧体で話す《ボク》キャラの1つとして《ごまめ》も認められ、この人物像は「格」が《格低》よりも低いというスタンスや「年」が《幼児》だという質を指標する。

## 5.2 丁寧体と非丁寧体の両方で話す《ボク》キャラ

丁寧体と非丁寧体の両方を使い分ける《ボク》キャラは、次のようなものが見られた。

(6) ピーター：やるじゃないか Λ 壊滅に女王・五摂家皆殺し 王政崩壊 GFへの侵入も上手くやったな 食用児にしては上出来だ だが僕はそこにはいない 映像は差替え 僕達の方が一手早かったね

ノーマン：ヴィンセント達は？

(白井カイウ・出水ぼすか「約束のネバーランド」『週刊少年ジャンプ』2020年13号, 集英社)

(7) ピーター：ユリウスは何も悪くない 僕らは世界を守る一族なのです 私情を排し世界を救った！ 英断です 大切な戦友を裏切ってまで世界を守ったのです それでこそ英雄 崇高な使命を賜りし一族 すばらしい！！ ラートリーはこうでなければ

ミネルヴァ：“崇高な使命”… 確かに私もそう思っていた… でも違う これは“罰”だよ そして“呪い”だったんだピーター

(白井カイウ・出水ぼすか「約束のネバーランド」『週刊少年ジャンプ』2020年18号, 集英社)

(8) イザベラ：あなたは…

ピーター：こんにちは あなたの飼育成績は類を見ない… 圧倒的だった 僕も農園はあなたを残すべきだと思う 迷いますか? (中略) 本当に“充分”ですか? あなたはまだ全てを知らないのに 欲しかった未来もまだ何一つ手にしていないのに 知りたくありませんか?

(白井カイウ・出水ぼすか「約束のネバーランド」『週刊少年ジャンプ』2020年9号, 集英社)

(6)のように「ピーター」は自らの目下に対して非丁寧体で話し、さらに「食用児にしては」のように《上位者》と同じく周りを自らよりも劣っているように扱う。しかし、目上の相手に対して(7)や公的な場面(8)では丁寧体を用いる。上下関係や内外の関係、場面の公私は敬語の使い分けの基準として従来より挙げられるものである。よって、一般的な基準に従って丁寧体を用いる「ピーター」のような《ボク》キャラは《常識人》である。《常識人》は聞き手への待遇意識を持って丁寧体を用いており、西澤(2020)はそのような敬語の使用が一般に「上品」と捉えられることを明らかにしている。このことから、《常識人》は「品」において《上品》という質を指標する。

### 5.3 《ボク》キャラの指標の場

以上、丁寧体の使用に注目して分析した《ボク》キャラとその指標性を Eckert (2008) の「指標の場」を参考にまとめると、図2のようになる。

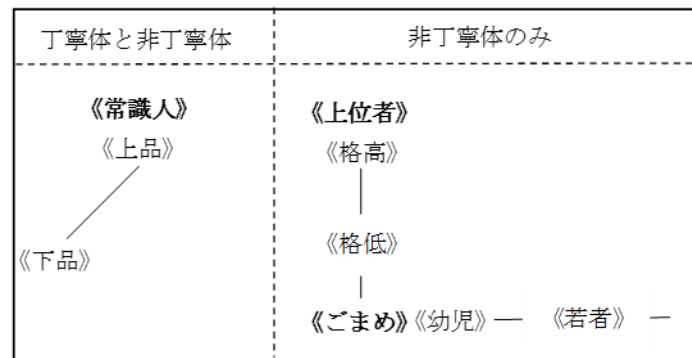


図2 《ボク》キャラの指標の場

## 6. 《オレ》キャラの丁寧体使用

「オレ」を使用する男性の発話を観察したところ、一貫して非丁寧体で話す人物、丁寧体と非丁寧体を使い分ける人物が多く見られた。

### 6.1 非丁寧体のみで話す《オレ》キャラ

非丁寧体のみで話す《オレ》キャラとして、次のようなものが見られた。

(9) カイドウ：ああ構わねエ 後で広間へ行こうぜ 今日は無礼講だ！！ お前らをリンリンに会わせるつもりだったが着替え中だそうだから……… 後にしよう そうこうしてる間に…今ちょっと事件が起きて…お前らを待たせた

うるティ：グダグタじゃねエか！！

ページワン：おいやめとけ！！！！

カイドウ：まあそうだが別におれァお前らの事招集してねエからなァ

(尾田栄一郎「ONE PIECE」『週刊少年ジャンプ』2020年23号, 集英社)

(10) オールマイト：残念ながら2・3代目に関しては手掛かりも見つからなかった時代とワン・フォー・オールの性質が相俟って記録から探るのは不可能だった “個性” が宿るとわかっていれば歴代も何かしらの形で残していただろうが…

爆豪：どーでもいーから話ィ進めろ 俺の貴重な時間をあんたらに割きたかね  
ーんだよ

緑谷：黒鞭ですがまだ一秒くらいしか持続できないので瀬呂くんや相澤先生のようには扱えませんが補助能力として既に強力な“個性”だと思います  
 オールマイト：あれ以来歴代との接触はないんだね？

緑谷：はい

爆豪：第五代継承者「ラリアット」 「本名・万繩 大悟郎 “個性”『黒鞭』」  
 「身体から放出するヒモ状のエネルギーで捕縛と空中機動を得意とした」  
こいつもそーだがどれも特に強エ “個性” 持ちってわけじゃねんだな  
 聞いたこともねエ奴ばっかだしよ

緑谷：え…めちやくちや凄い“個性”だらけじゃない…！？

爆豪：てめーは“個性”なら何でも凄エんだろが ザコ価値観が！

(堀越耕平「僕のヒーローアカデミア」『週刊少年ジャンプ』2020年8号, 集英社)

(9)の「カイドウ」、(10)の「爆豪」はともに一貫して非丁寧体で話す。このような一貫して非丁寧体で話す《オレ》キャラの発話では、否定の語「ねえ」、対称詞「お前」「てめー」など、ぞんざいな言葉づかいをするという共通点が見られた。「カイドウ」は大海賊団のボスであり、丁寧体を使う必要のある相手との発話自体が見られない。しかし、「爆豪」は同級生の「緑谷」に対して非丁寧体で、さらにぞんざいな言葉づかいもするのに加え、教師である「オールマイト」に対しても同様に発話している。

このように一貫して非丁寧体で話し、周りの人物を下位者と捉えるように振る舞う点で《上位者》の《ボク》キャラと共通する。しかし、(9)(10)のような《オレ》キャラは、ぞんざいな言葉づかいと共起する頻度の点で《上位者》の《ボク》キャラとは異なる。つまり、ここで見た《オレ》キャラと《上位者》の《ボク》キャラは、「格」において《格上》を指標する点で類似するが、「品」において《オレ》キャラは《下品》を指標し、《上位者》は何も指標しないという点異なる。(9)(10)と同様に発話する《オレ》キャラには、「カイドウ」のように実際に周りに下位者しかいない者、また「爆豪」のように自らを強者と信じて止まない者が多く見られたため、《絶対強者》キャラとラベルづけする。

## 6.2 丁寧体と非丁寧体の両方で話す《オレ》キャラ

丁寧体と非丁寧体を使い分けて話す《オレ》キャラには、次のようなものが見られた。

(11) デンジ：え～北海道！？ ズリい！ 俺も行ってえ

パワー：ワシも行ってえ！

アキ：墓参り行くだけだぞ

デンジ：旅行中止になったしどっか行って～んだよ パワ子ちゃんも落ち着いてきたし

(藤本タツキ「チェンソーマン」『週刊少年ジャンプ』2020年7号, 集英社)

(12) マキマ：手短に言うね 銃の悪魔が突然現れて私達は倒し損ねてしまったの  
 そのせいで死体に移り移って逃げてしまっね その銃の魔人がキミ  
 の家のチャイムを鳴らしている

デンジ：はは… ナニ冗談いってんすか 銃野郎がオレん家の前にくるわきゃ

ないっすよ…！ マキマさん…？ …ま！ まあ俺に任せてくださいよ！ あっちから来てくれて交通費節約できてラッキーすよね！

(藤本タツキ「チェンソーマン」『週刊少年ジャンプ』2020年32号, 集英社)

(13) ドレイク：なんだ少年 お前も月を見に来たのか

ファフナ：なワケねーだろ お前が敵に俺達をつき出すつもりなら…そうできねーようにする！！

(坂野旭「魔女の守人」『週刊少年ジャンプ』2020年17号, 集英社)

(14) ドレイク：自ら出てきたか…覚悟は決まったのかー？

ファフナ：はい 裏をかいて攻撃しろって言いましたよねドレイクさん でも俺達…アホなんです 力不足でも…まっすぐ進むしかできない

(坂野旭「魔女の守人」『週刊少年ジャンプ』2020年19号, 集英社)

(11)(12)の「デンジ」、(13)(14)の「ファフナ」はそれぞれ、丁寧体((12)(14))と非丁寧体((11)(13))を相手によって使い分ける。「デンジ」は、同輩には非丁寧体で話し((11))、先輩には丁寧体で話す((12))。また「ファフナ」は同一人物である「ドレイク」に(13)では非丁寧体、(14)では丁寧体で話しているが、(13)は二人が敵として出会った場面、(14)は(13)の場面の後、師弟関係になった場面での発話である。つまり、同じ目上であっても、内外の関係において、内の相手になったときに丁寧体が用いられており、これは「デンジ」が先輩(目上の身内)に対してのみ丁寧体を用いることと同じである。

このように《オレ》キャラの中には、目上の身内に対しては丁寧体で話し、そうでない相手には非丁寧体で話すものが複数見られた。また、それらの多くが(12)の「デンジ」のように、「～(っ)す」という形での発話をしていた。この「～(っ)す」という発話に関して、中村(2020)は「ス体」と呼び、現実場面では体育会系の男子学生がよく用い、特に丁寧さと親しさの両方を表すと指摘している。よって(11)～(14)のような《オレ》キャラを《体育会系男子》とラベルづけする。これは「格」において《格下》を指標する。

### 6.3 《ボク》キャラの指標の場

以上、丁寧体の使用に注目して分析した《ボク》キャラとその指標性を Eckert (2008) の「指標の場」を参考にまとめると、図3のようになる。

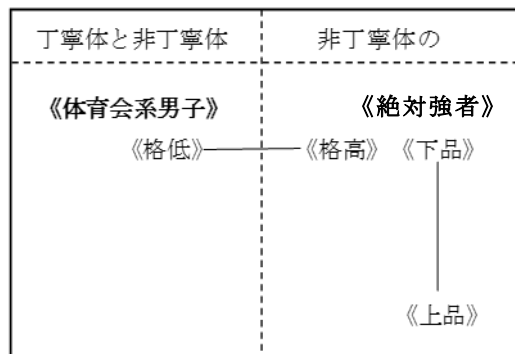


図3 《オレ》キャラの指標の場

### 7. おわりに

本発表では丁寧体の使用に注目して、《ボク》キャラと《オレ》キャラを分析した。また、

それら人物像の指標性について、Eckert (2008) の「指標の場」を参考に考察した。その結果、自称詞「ボク」「オレ」ともに複数の人物像と結びつくこと、またそれら複数の自称詞キャラクタ同士の関係性の一端を明らかにした。最後に本発表で考察した《ボク》キャラ、《オレ》キャラの間の関係性を「指標の場」に倣ってまとめると、図4のようになる。

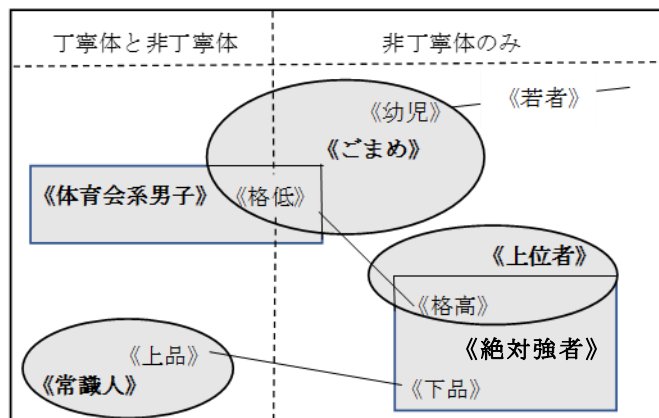


図4 《ボク》キャラと《オレ》キャラの指標の場  
(楕円が《ボク》キャラ、四角が《オレ》キャラ)

本発表を踏まえ、自称詞と人物像の結びつきの様相は単純でないことが改めて明らかになり、また指標性に注目することでその様相を体系的に捉えることの可能性が示された。

今後、他の言語要素にも注目すること、またフィクション作品と現実場面との関係性に注目すること等を通し、さらに自称詞キャラクタの実態が明らかとなることが期待される。

#### 注

(1) 訳語「指標の場」については、中村 (2020) を参考にした。

#### 調査資料

『週刊少年ジャンプ』2020年1-52号, 集英社.

#### 参考文献

Eckert, Penelope (2008) "Variation and the indexical field", *Journal of Sociolinguistics*, 12(4), pp.453-476, Blackwell Publishers.

金水敏 (2003) 『バーチャル日本語 役割語の謎』, 岩波書店.

定延利之 (2011) 『日本語社会のぞきキャラくり 顔つき・カラダつき・ことばつき』, 三省堂.

定延利之 (2020) 『コミュニケーションと言語におけるキャラ』, 三省堂.

中村桃子 (2020) 『新敬語「マジヤバイっす」 社会言語学の視点から』, 白澤社.

西澤萌希 (2020) 「どう話せば上品か—NWJC『梵天』を利用した言説分析—」『NINJAL 国際シンポジウム第11回日本語実用言語学国際会議予稿集』, pp.128-131, 国立国語研究所.

西澤萌希 (2021) 「《ボク》キャラと《オレ》キャラの接点—ことばとキャラクタの結びつきに注目して—」『名古屋大学人文学フォーラム』4, pp.185-200, 名古屋大学大学院人文学研究科.